

1 目的

枕崎市大塚地区は60年の歴史を持つ県内一の電照ギク産地であり、1戸当たりの生産面積が平均1ha以上と大規模経営体が多いことが特徴である。

しかし、近年は高齢化や担い手不足に加え、雇用労働力確保が厳しくなっていることから、産地の維持・拡大が困難な状況にある。

また、家族葬の増加による葬儀の規模縮小や、仏花の多様化などによる、輪ギク需要の低下も懸念され、今後の産地のあり方について考える時期になってきている。

そこで、省力化や高品質生産の実現による産地の維持発展を目指し、施設内の温度や湿度、飽差、炭酸ガス濃度を生育に適した環境に制御する環境制御技術や施設モニタリングシステム等のスマート農業について情報収集及び実証活動を行う。

2 実施状況

(1) 環境制御技術の実証

ア 夏季栽培での奇形花発生による品質悪化を改善するために、遮光塗布剤を利用した高温対策実証を行い、中期展張型ハウスにおいて従来の遮光被覆資材の利用と併用することで、奇形花発生率を2割程度軽減できることがわかった。

イ 冬季栽培でのボリューム不足等の品質悪化を改善するために、早朝加温や炭酸ガス施用等の環境制御技術を実証し、草丈伸長性の向上やボリュームアップ等の効果があることを確認した。

(2) スマート農業に関する情報収集

ア 炭酸ガス施用技術の具体的な導入に向け、長崎県における環境制御技術導入状況について調査し、導入している機械や使用事例、効果について情報収集ができた。

イ 愛知県における炭酸ガス施用、LED照明による補光、施設内環境モニタリングシステム等のスマート農業技術導入・試験状況について農業開発総合センターを通して情報収集を行い、今後の実証・導入に向けた材料とした。

(3) 地域への成果波及

ア 地域の生産者が集まる研修会で、夏季栽培における遮光塗布剤を利用した品質改善実証結果を取り組んだ会員が報告し、評価を得られた。

3 今後の課題、取り組み

- (1) 遮光塗布剤を利用した品質改善技術の確立
- (2) 炭酸ガス施用を軸とした環境制御技術の確立
- (3) 地域への成果の波及



写真1 遮光塗布剤の処理



写真2 炭酸ガス施用実証ほ現地検討



写真3 長崎県での情報収集



写真4 地域の生産者への成果報告